

平成30年5月14日

中央区は59年ぶりに定住人口16万を突破しました

本区の人口は、平成30年5月14日に16万人を突破し、昭和34年以来59年ぶりに16万人台に回復いたしました。

本区が誕生した昭和22年当時の人口は116,940人でしたが、復員や戦災復興とともに急速に増加し、昭和28年には172,183人とピークを迎えました。しかしその後、高度経済成長と都市化の進行に伴い減少し、昭和40年には14万人を割り、さらにバブル経済を背景とした地上げや底地買いなどにより、平成9年4月には戦後最低の71,806人まで減少し、都心の空洞化や地域活力の低下などが深刻になりました。

このため本区では、定住人口回復を区政の最重要課題と位置づけ、昭和63年1月に「定住人口回復対策本部」を設置し、「都心に人が住めるようにしよう」を合い言葉に住環境の整備を中心とした総合的な施策に区の総力をあげて取り組んできました。その結果、平成18年4月4日には長年の目標でありました「定住人口10万」を達成しました。その後、人口は順調に増え続け、平成20年9月に11万人、平成23年11月に12万人、平成25年4月に13万人、平成27年4月に14万人、平成29年1月に15万人、そしてこのたび16万人を突破しました。

人口構成では、特に30代、40代、50代の働き盛り世代が中心となり、かつて23区の中でもトップクラスであった高齢化率が現在では15.46%と最も低くなっています。また、年間出生数は平成11年までは500人台でしたが、10万人を達成した平成18年以降は1,000人を超え、昨年は2,079人の新生児が誕生するなど、まちには子どもたちの元気な声とともに“にぎわいと活気”が満ちあふれております。

今後とも、このにぎわいと活気を地域にしっかりと定着させるため、子どもから高齢者まで誰もがいきいきと暮らし続けられるまちづくりを推進してまいります。